

科目名	グリーン・ツーリズム論	教員名	はしもと 橋本	まこと 信	開講 コース	作物生産 花園芸	2年次	後期
<p>・目的と内容</p> <p>グリーン・ツーリズムは、農業と農村が持っている「農業生産+アルファ」の「+アルファ」の部分で「人と人との交流」に生かすものです。農業・農村の営みは土と作物との生きた対話を大事にするだけでなく、人と人との出会いを大切にします。グリーン・ツーリズムは人と人が交流し対話する農業・農村の営みです。農業・農村の持つ本来の価値を体験と交流を通して再発見する取り組みがグリーン・ツーリズムです。</p> <p>そのため、西欧諸国や全国各地で地域活性化の有力な方策としてグリーン・ツーリズムが取り組まれています。その実際のあり方は国と地域に応じて様々な様相を見せています。この授業では、グリーン・ツーリズムの日本と外国の現状のあらましをつかみながら、実際に取り組むためにはどのような考え方と方法が必要であり、農業と農村にとってどのような意義を持つのかをつかみ取ることを狙いとしています。</p>								
<p>・授業計画 [単位数：2単位、授業週数：15回]</p> <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グリーン・ツーリズムとは何か？</li> <li>2. 西欧のグリーン・ツーリズム</li> <li>3. 日本のグリーン・ツーリズム</li> <li>4. 北海道のグリーン・ツーリズム</li> <li>5. 農業体験とグリーン・ツーリズム 1</li> <li>6. 農業体験とグリーン・ツーリズム 2</li> <li>7. 農家レストランとグリーン・ツーリズム 1</li> <li>8. 農家レストランとグリーン・ツーリズム 2</li> <li>9. 農家民宿とグリーン・ツーリズム 1</li> <li>10. 農家民宿とグリーン・ツーリズム 2</li> <li>11. 北海道発信のグリーン・ツーリズムの特徴</li> <li>12. 北海道発グリーン・ツーリズムの今後</li> <li>13. 日本型グリーン・ツーリズムの今後</li> <li>14. 農業・農村におけるグリーン・ツーリズム</li> <li>15. これからのグリーン・ツーリズム</li> </ol>								
<p>・講義の進め方</p> <p>北海道のグリーン・ツーリズム実践者による講義を6回予定しています。グリーン・ツーリズムの基本的な動向を踏まえて、日本と北海道の取組みの現状を把握するとともに、実践者の生の声を傾聴することを通して、これからのグリーン・ツーリズムのイメージをそれぞれにレポート提出という形で描きだすようにします。</p>								
<p>・試験と成績評価</p> <p>6回の実践者の講義の感想文の提出と課題レポートの提出とを課します。成績評価は、平常点30%、講師レポート20%、課題レポート50%で行う予定です。提出方法はいずれも遠隔授業システムによります。</p>								
<p>・担当教員から受講生諸君へ</p> <p>この科目の内容は固定した学説があるわけではなく、現在進行形のもので、それだけに自らが参加して創り上げることのできる面があり、受講生一人一人が参加して作り上げる授業にしたいと考えています。</p>								
<p>・使用教材</p> <p>教科書：指定しない</p> <p>参考書：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『グリーン・ツーリズム実践の社会学』 青木 辰司 著 (丸善株式会社)</li> <li>2. 『グリーンライフ入門』 佐藤・篠原・山崎 著 (農山漁村文化協)</li> <li>3. 『グリーン・ツーリズムの文化経済学』 多方 一成 著 (芙蓉書房出版)</li> <li>4. 『地域経営型グリーン・ツーリズム』 井上・中村・宮崎・山崎著 (都市文化社)</li> <li>5. 『日本的グリーン・ツーリズムのすすめ』 2000年「現代農業」11月増刊 (農山漁村文化協会)</li> <li>6. 『持続可能なグリーン・ツーリズム』 青木 辰司 他著 (丸善)</li> <li>7. 『これからのグリーン・ツーリズム』 宮崎 猛 編著 (家の光協会)</li> <li>8. 『グリーン・ツーリズム』 小山・大島・山崎 著 (家の光協会)</li> </ol>								